WHITEHOUSE

PRE-OPEN 03/20-27
OPEN 04/10-



表紙

WH

ABOUT

WHITEHOUSE WHITEHOUSE WHITEHOUSE

In 1960, Neo-Dada Organizers operated from their group leader Masanobu Yoshimura's residence, known as Shinjuku White House. Chim↑Pom's studio since 2019, the building will reopen as an art space for limited pass holders in April 2021. As architect Arata Isozaki's first work, it currently serves as Chim↑Pom member Ryuta Ushiro's personal residence.

We will sell a limited number of 300 passports on a first-come, first-serve basis. Pass holders may attend White House's monthly exhibitions. They also have access to events, nomikai drinking parties, and a LINE OpenChat as well as viewings of permanent works and a Neo-Dada mural (or graffiti?) hidden in the depths of the atelier. The one-year pass also comes with exclusive content on the members-only website, including various reviews by emerging critics and more.

The passport will be designed by Shun Ishizuka. Many of the events are exclusive to members as we attempt to nurture White House through meaningful conversations and a shared sense of audience participation.

In addition, GROUP (Gaku Inoue, Takahiro Omura, Naoki Saito, Kumiko Natsumeda, and Ken Akatsuka) will create the layout for our café and bar opening to the public. They plan to reinvent Shinjuku White House's exterior while paying homage to the space's original design and context.

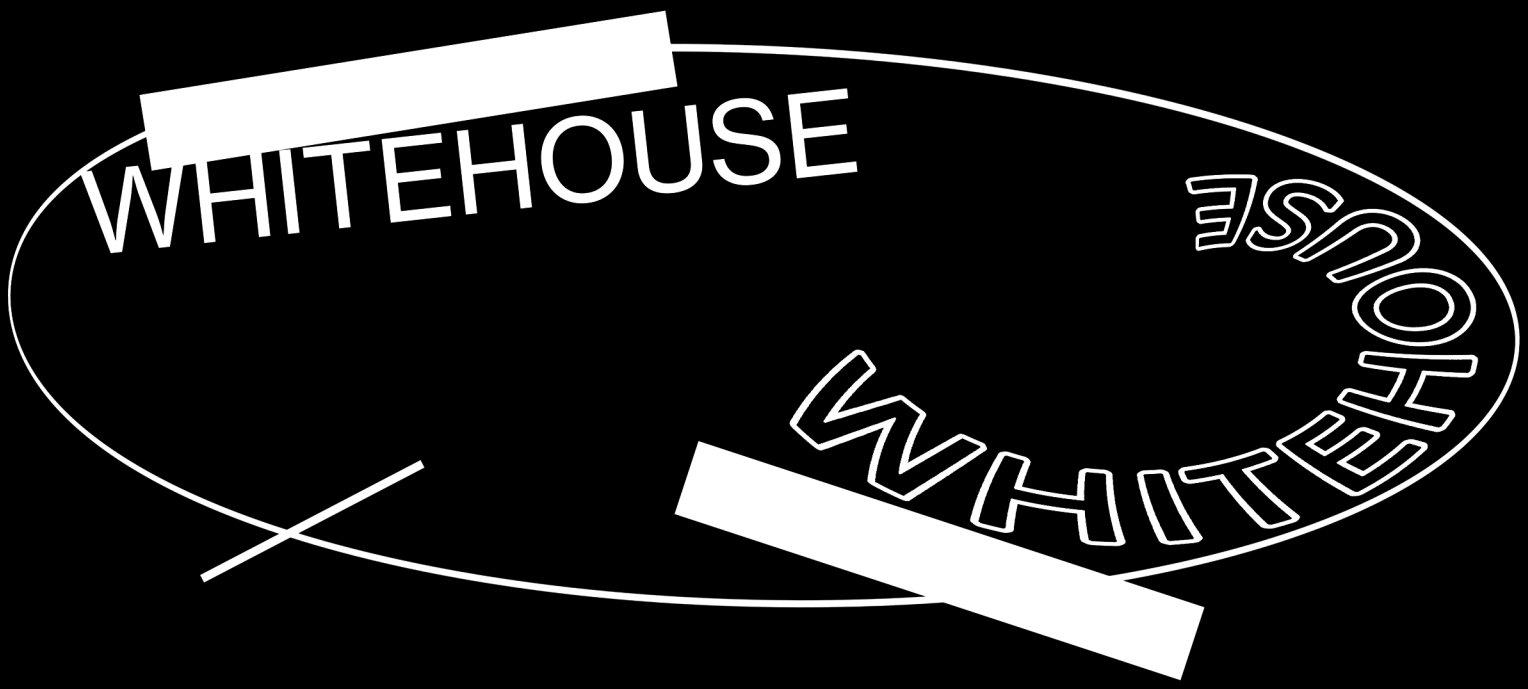
For programming events, Constant Voisin, who published a book on Shion Sono in France, joins us from the film world. Youth at the forefront of cultural fields, including music, art, fashion, craft beer, and more, will converge to create content as an integrated art space.

Before the opening, we will begin the registration process for passports both online and at Shinjuku White House. Registration will be available online from Friday, March 19 to Wednesday, March 31, and on-site from Saturday, March 20 to Saturday, March 27. Online from March 19 to 31, we will stream a talk with Ushio Shinohara, one of Neo-Dada's central figures, and Keiichi Tanaami, who witnessed the movement surrounding the space at the time. Between March 20 and 27, registrants have the last opportunity to see Shinjuku White House as Chim↑Pom's atelier before its renovation.

On Saturday, April 10, we launch our grand opening with urauny's solo exhibition, urauny dinner.

We look forward to your registration.

InformaXon about the members-only passports



Information about the members-only passports:

We have two kinds of exclusive passes,
issued to 300 people on a first-come, first-serve basis.
To register, please access the form below and select whether
to register online or at Shinjuku White House.
We accept payment via PayPal online and cash on-site.

Please register below:
https://776869746568 6f757365 .com

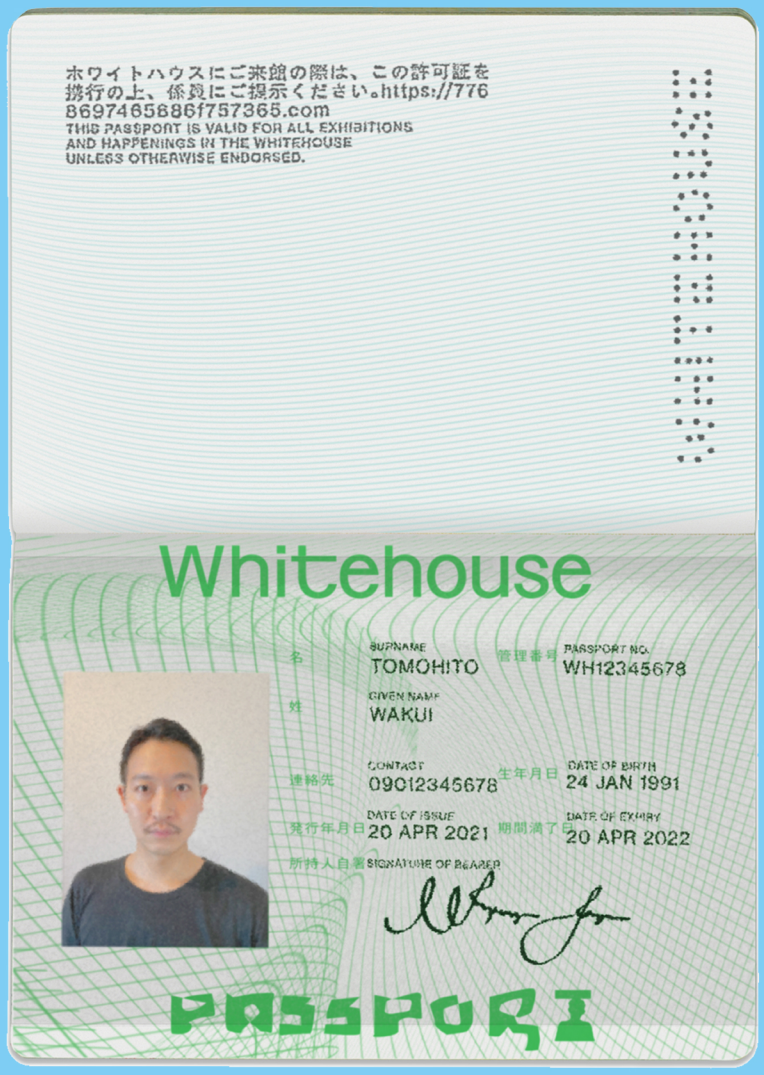
[Online registration period]
Friday, March 19 –Wednesday, March 31

[On-site registration period]
Saturday, March 20 – Saturday, March 27
Opening Hours 14:00-19:00

Passport benefits:
-Attend all exhibitions and events
-Join our LINE OpenChat
-View Shinjuku White House's permanent works
and a previously exclusive Neo-dada mural (or graffiti?)
-Read reviews by emerging critics
-Use a shower stall created by Motomu Inaoka (Chim↑Pom)
-Book a night at Shinjuku White House for a special rate

PASSPORT SAMPLES

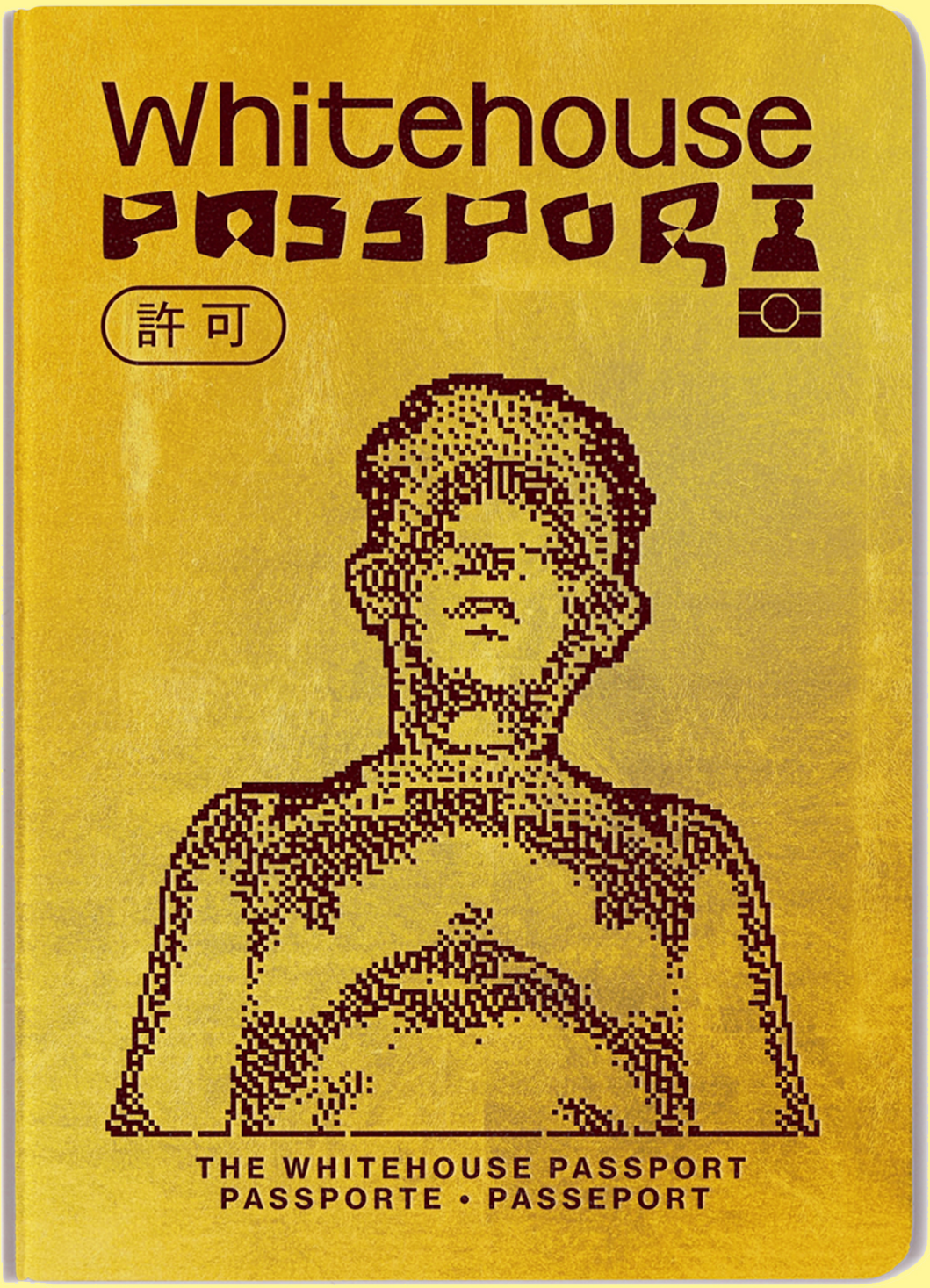




※デザインは変更する場合があります
※パスポートは１年間有効です

NORMAL 15,000JPY

WHITEHOUSE



※デザインは変更する場合があります
※パスポートは１年間有効です

ADVANCED 30,000JPY

ノーマルの特典に加え、

- 展覧会ごとにアーティストor主催者によってパスポートが
  Each exhibition will be edited by
  EDITされていく
  the artist or the organizer
- サイン付き
  Autographed

+α

Venue: White House
1-1-8 Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo

Dates: April 10 onwards

Online registration period: Friday, March 19 – Wednesday, March 31
On-site registration period (includes access to Chim↑Pom's studio!):
Saturday, March 20 –Saturday, March 27. Opening Hours: 14:00-19:00　*Cash only

Organized by Ryuta Ushiro (Chim↑Pom), Tomohito Wakui, and Nao Nakamura

Supported by Smappa!Group

Exterior design by GROUP (Gaku Inoue, Takahiro Ohmura, Naoki Saito, Kumiko Natsumeda, and Ken Akatsuka)

Construction by Syoma Fujimura (Namazu), Hidetoshi Inanaga, Shiori Watanabe, and Sho Sato

Passport designer: Shun Ishizuka

Installation support provided by Kenta Nishimura, and Hidetoshi Inanaga

Translator: Hibiki Mizuno

URL: https://77686974656 86f757365.com

Registration link: https://77686974656 86f757365.com

Contact: 30db30ef30a430c82d30cf30a630b9@gmail.com

【PRE-EVENT】
ONLINE STREAMING
03/19/2021-03/31
Ushio Shinohara × Keiichi Tanaami
TALK EVENT
https://youtu.be/V_GVIeWOiis

長津

ART

uraun

渡辺志桜里

秋山佑太

磯崎隼士

クサムラマッドラット

オルタナティブスペースコア

ロジャー・ジャヌワタ

ナオ ナカムラ 他

WRITER

仲山ひふみ

東千茅

ジェレミー・ウールズィー

小島和日明 他

EVENT

コンスタン・ヴォアザン

浦井智仁 他

FASHION

YUKI FUJISAWA 他

MUSIC

土井木封

小松千倫 他

PERFORMANCE

三野新 他

gendainokaainosaannkaa-texisuto

現段階の参加予定アーティスト

伍



STATEMENT

ネオダダイズム・オルガナイザーズの拠点・新宿ホワイトハウスは、「前衛」の巣として熱を閉じ込めた牢であり、それを発散させた宴会場だった。

「真摯な芸術作品をふみつぶして行く二〇・六世紀の真赤にのぼせあがった地球に登場して我々が虐殺をまぬがれる唯一の手段は殺戮者にまわることだ(ネオ・ダダ第1回展マニュフェストより)」

磯崎新によって設計された、新宿ホワイトハウスの三元×三元×三元の立方体の九間は、民意を隔てたホワイトキューブとして、夜な夜な舞い上がった毒の祝祭の容れ物……サロンとなっていたようだ。そこで散った唾と、汗と、大声と、酒の匂いと、花火の閃光と、硫酸の香りと、「アクションあるのみ」と戦後をヤケクソにスパークさせた平和への挑戦……それらの痕跡は、多くのメンバーが他界した今も、錆となってキューブの内部に取り憑いている。その念にフェロモンのように誘い寄せられるのは、当時も今も、いつの時代も前衛の遺伝子である。殺戮者たらんとしたポピュリスト、ネオ・ダダの姿と新宿ホワイトハウスという実験場の、その異質性に大衆はメディアを通して何を見、恐れ、ハラハラとしたろうか。現在、至る所でその秩序は逆になり、アートは大衆に認められたコンテンツとしてパブリックを装っている。「大衆」という漠然としたモンスターを、「観客」であると勘違いしてはいけない。「前衛」が戦場で命と差し違えて最前線で闘う姿なのだとして、であればこそ大衆が安全圏にいられるのだとしたら、両者で見識と常識をすり合わせようとするいまの「アートシーン」に、前衛はない。我々は「観客」と「大衆」を切り離さなければならない。民意を隔つWhite Houseの塀の中に入るべきは、最前線のリスクで昂まる「観客」なのである。ここに既存の公共感は無い。しかし真の観客が集まる前衛の、その公共圏の概念に限りは無い。

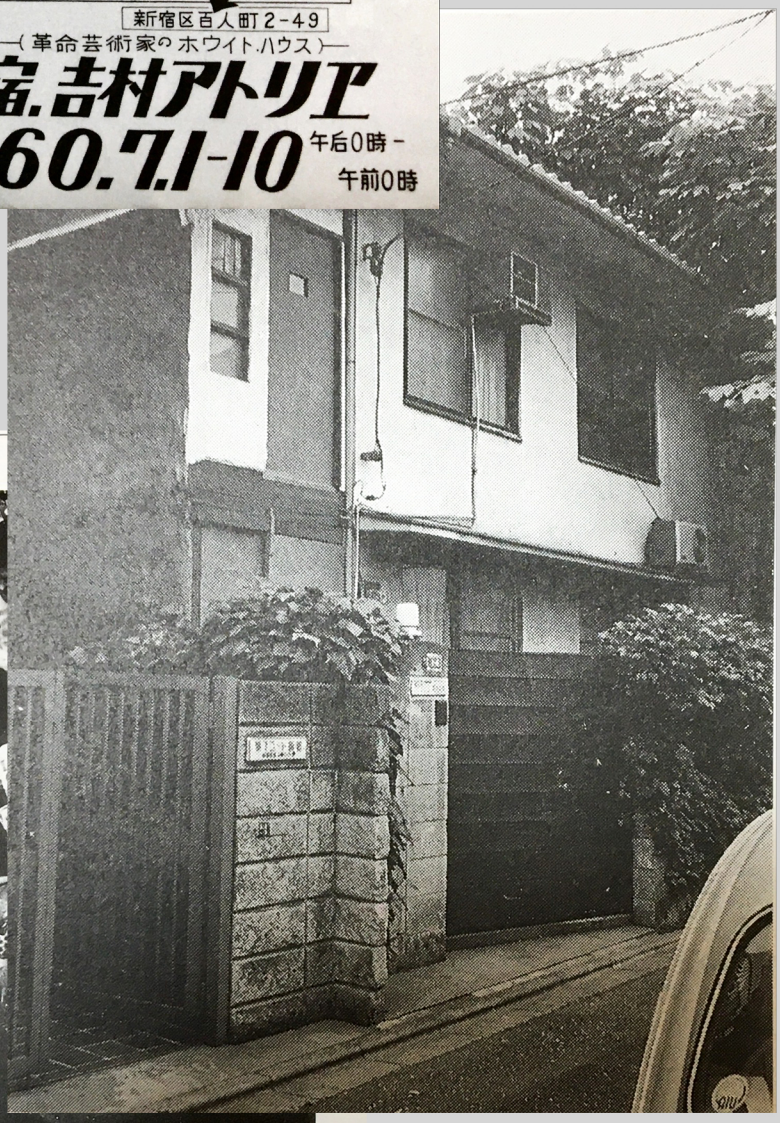
新宿ホワイトハウスから0.6世紀を経た21.2世紀、White Houseはその遺伝子を改めて募る。

卯城竜太

新宿ホワイトハウスについて（Wikipediaより引用）

新宿ホワイトハウスは、1957年（昭和32年）、磯崎新の設計で新宿区百人町に建てられた吉村益信の住居兼アトリエ。白いモルタル塗りから「ホワイトハウス」と呼ばれ、1960年（昭和35年）、ネオ・ダダの活動拠点となった。日本を代表する世界的建築家、磯崎新の処女作である。
1957年、吉村益信は親の遺産を元に新宿区百人町に土地を購入。
高校の先輩、磯崎新に住居兼アトリエの設計を依頼。磯崎の設計図に基づいて、吉村は自力で建築した。白いモルタル塗りから「ホワイトハウス」と呼ばれ、若い芸術家たちの溜り場となった。
1960年3月、赤瀬川原平、篠原有司男らとともに、ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズをホワイトハウスで結成。
同年4月、第1回ネオ・ダダイズム・オルガナイザー展（銀座画廊）
同年7月、第2回ネオ・ダダ展をホワイトハウスにて開催。ポスターには「革命芸術家のホワイトハウス」と銘打った。
同年9月、第3回ネオ・ダダ展開催（日比谷画廊）
1961年、吉村の結婚によりネオ・ダダは「蒸発」。
1962年、吉村はホワイトハウスを売却、渡米した。
その後、画家の宮田晨哉が居住。なお、現在は宮田佳が所有している。
2011年3月15日、吉村益信が死去。
2013年4月、カフェアリエがオープン（2019年3月に閉店）
2021年2月、Chim↑Pomがアトリエとして使っている。





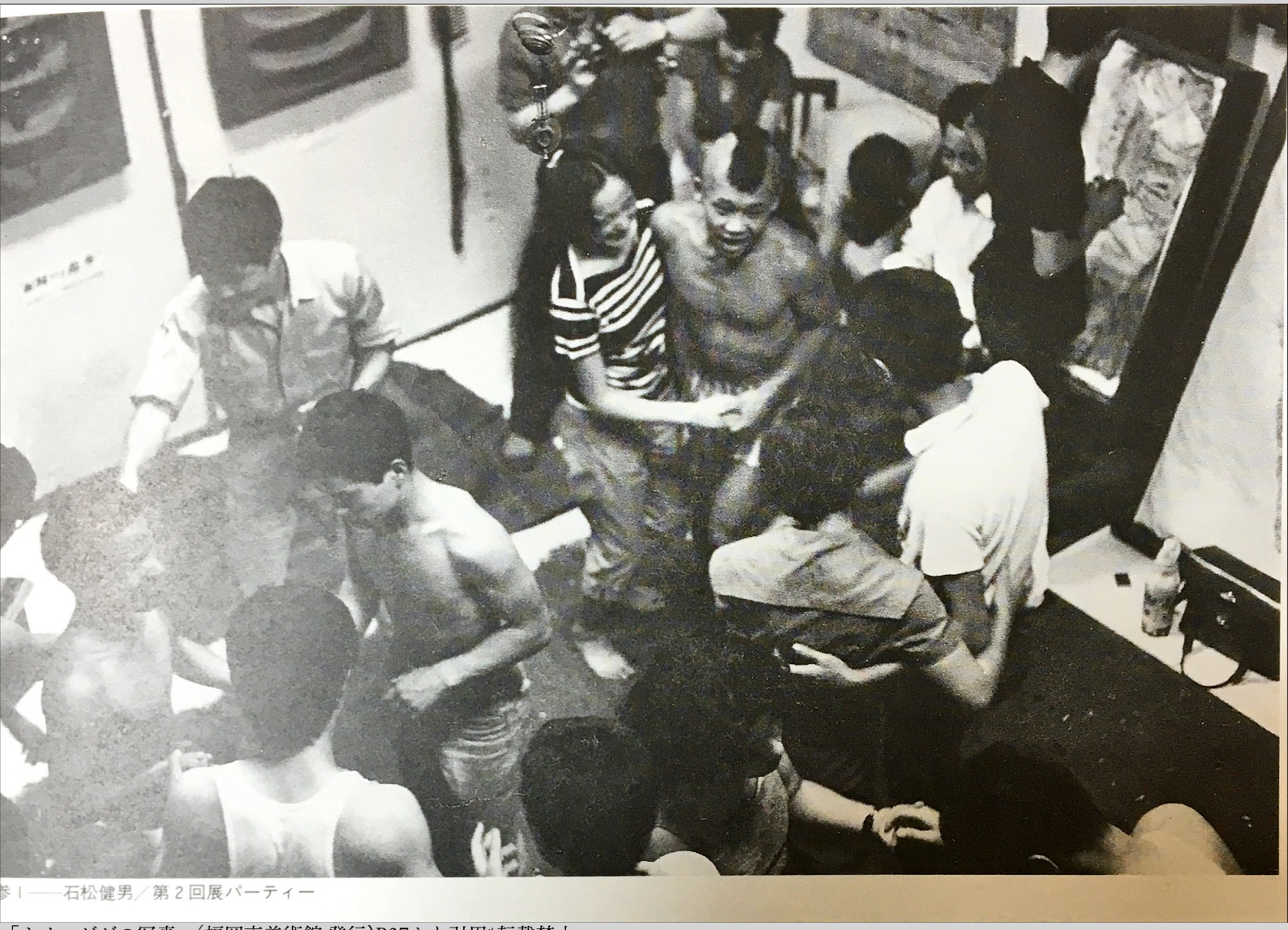


漆

「ネオ・ダダの写真」(福岡市美術館 発行)P15.16.17より引用*転載禁止

ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズについて（Wikipediaより引用）

ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズは、1960年に結成され、約半年活動した日本の前衛芸術グループ。
1960年2月に行われた第12回読売アンデパンダン展の直後、同展に「反絵画・反彫刻」（美術評論家の東野芳明が命名した）を出品していた若手アーティストたちによって結成された。メンバーは吉村益信、篠原有司男、赤瀬川原平、荒川修作、風倉匠、有吉新、石橋清治、上田純、上野紀三、豊島壮六、岸本清子。
同年4月、銀座画廊で第一回展を開催。マニフェストを引用すると、「1964年の生殖をいかに夢想しようとも一発のアトムが気軽に解決してくれるようにピカソの闘牛もすでにひき殺された野良猫の血しぶきほどに、我々の心を動かせない。真摯な芸術作品を踏みつぶしていく20.6世紀の真赤にのぼせあがった地球に登場して我々が虐殺をまぬがれる唯一の手段は殺戮者にまわることだ」。
7月、岸本清子、田中信太郎、田辺三太郎、吉野辰海を新メンバーに加えた第二回展を吉村のアトリエ（「芸術革命家のホワイトハウス」と称した）で開催した。副題は「クタバレネオ・ダダイスト。恒久平和をうちたてる。嫌悪のダンゴに蜜蜂だ。灼熱の一切が始るぞ。狂乱ドッド。功利主義に埋没したぞ。ネオ・ダダ規制法案通過。したい。したい。したい。したい。したい。したい」。
9月、抜け駆け的に村松画廊で個展を開いた荒川修作が除名された。10月、升沢金平、木下新を新メンバーに加え、三木富雄、工藤哲巳をゲストに迎えた第三回展を日比谷公園の中にあった都営の日比谷画廊で行う。作品に小便を掛けたりしたため、アンモニア臭が漂うなどの理由により、一週間の会期半ばで陳列を拒否され、画廊を閉鎖されてしまう。これがグループの最後の展覧会となった。グループの活動停止の理由は、リーダー格の吉村の結婚、および彼が所有していたホワイト・ハウスの閉鎖などによる。
伝説的なエピソードに『東京都美術館爆破計画』がある。「反芸術を徹底するために、芸術の象徴である美術館を爆破すべきである」というものだったが、「美術館の価値は絶対的なものではなく、爆破する意味はない」という意見が優勢で、実行には至らなかった。
「ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ」という呼称は正式なものではない。メンバー自身も「ネオ・ダダ・オルガナイザーズ」「ネオダダ・グループ」「グループ・ネオダダ」「ネオ・ダダ」など、さまざまな呼称を用いている。ちなみに第一回展のパンフレットに記載されたグループ名は「ネオダダイズム・オルガナイザー」であり、第二回展以降は「ネオダダ」である。
なお、このグループは形として残る作品をほとんど遺していないが、ジャクリーヌ・ポール、東松照明、石黒健治、石松健男、藤倉明治、小林正徳らがその活動を写真として記録している。



参1——石松健男／第2回展パーティー

「ネオ・ダダの写真」(福岡市美術館 発行)P37より引用*転載禁止

捌